

この法門出現せば、正法・像法
 に論師・人師の申し法門は、皆、
 日出でて後の星の光、巧匠の後に拙
 きを知るなるべし。この時には、正
 像の寺堂の仏像・僧等の靈驗は皆き
 えうせて、ただこの大法のみ一閻浮
 提に流布すべしとみえて候。各々は
 かかる法門にちぎり有る人なれば、
 頼たのもしとおぼすべし。

(御書新版2014ページ・御書全集1489ページ)

通解

この法門（教え）が出現するならば、正法
 時代や像法時代に論師や人師が説いた法
 門は、どれも、日が出た後の星の光のよう
 なものであり、名匠が出た後に（以前のもの）
 拙さが分かるようになるだろう。

この時には、正法・像法の寺院の建物に
 ある仏像や僧たちの利益は全て消え失せ
 て、ただこの大法だけが全世界に流布する
 であろうと説かれている。

あなた方は、このような法門に縁ある人
 なのだから、頼もしく思いなさい。

「太陽の仏法」で飛翔の一年を

よくわかる解説

みなさんこんにちは、サンです！ 今年も御書を学
 んで、朗らかに出発しよう！

今回学ぶ御文は、1278年（建治4年）駿河国（現
 在の静岡県）の富士方面にある三沢に住む三沢殿へ
 送られたお手紙です。

御文の前半で大聖人は、正法（仏の教えが正しく
 行われる）時代と像法（仏の教えが形式化してしま
 う）時代における教えは、末法（仏の教えの功力が
 消滅し、実践する人がいない）時代では、真実の仏
 法が説かれることにより、力を失った拙い教えであ
 ることが分かって仰せです。

このことを星の光に例えられ、末法の現代では真
 実の教えである南無妙法蓮華経が広まって太陽のよ
 うに輝くことで、他の星は見えなくなるとつづられ
 ています。

この大聖人の仏法は、全ての人が成仏し、幸せ
 になれることを説いた希望の教えです。御文の中
 で「ちぎり有る人」とあるように、このような仏

法に縁し、出あえたことはとても素晴らしいことな
 んだ。大聖人は、皆が偉大な使命を持って生まれて
 きたと呼びかけられているよ。一人一人に無限の可
 能性がある、光り輝いていけるこの仏法は、世界
 中の人々の心を照らし、今では192カ国・地域に
 広がっているんだ。

この「太陽の仏法」の実践の根本こそ、日々の勤行・
 唱題なんだ。真剣に祈る中で、いろんなことに挑戦
 しようとするエネルギーがたくわえられて、自分自
 身を輝かせていくことができるよ！

池田先生は、次のようにつづられています。

「題目は“生命の充電”です。ふだんから充電して
 おけば、いつでも生き生きと動くことができる。充
 電していなければ、いざという時に力が出ないで、
 負けてしまう。若いうちに題目を生命に染みこませ、
 充電した人は、一生涯の幸福の土台をつくっている
 のです」

「太陽の仏法」を学び、実践して、「世界青年学会
 飛翔の年」を元気いっぱい過ごしていこう！